

11月祭へ行こう!

～前夜祭編～

秋です。夜が長くなり、日に日に寒さが押し寄せ、紅葉と銀杏が目に見える秋。そう、今年も11月祭の季節がやってまいりました。今回も我々がはくび会は、前夜祭模擬店に参戦。グラウンド中央のファイヤーにも、ステージ上の応援団の演舞にも背を向け、来場者の口に焼肉とキムチをねじ込めんと肉を焼いていました。(おいしくいただきました。)ちくしは、広岡先生が前夜祭になんと「初」参加。4回生も売り子やら何やら頑張っていたようです。みなさまお疲れ様でした。前夜祭終了後は恒例の打ち上げ。相変わらずの盛り上がりを見せ、酔いの醒めないみなさまはその後2次会と称してちくし居室へ。お喋りしたり、じゃらじゃらと音のする中国語レッスンをしたりとみなさん楽しんでいました。



～本祭編～

前夜祭の翌日からは本祭が始まります。ちくしの面々は前夜祭ではしゃぎすぎるが故にあまり行かない、という噂(笑)が流れる中、ちよろつと行ってきたのでご紹介します。

・どこへ行こうかとパンフを購入。が、多くの企画が紹介を放棄しネタに走っているため検索を断念。北から見ていくことに。

・みかんを購入。300円で詰め放題。ぎちぎちに詰めるが、大半を道中で出くわす友人たちに奪われる。



・古本市に遭遇。定価の2割だったので学術本と小説を購入。店員さんの「定価の2割の5倍でどうですか」という悪魔のような提案を排除し、少し安くしてもらった。

・ぶらぶら企画を見ながら南下、ついでにスタンプリーに参加してみる。

・スタンプがそろったので景品交換、絵ハガキ4枚獲得。



・お笑い芸人のライブに背を向け、あえて演劇を見に行く。劇のあまりのはっちゃけぶりに不覚にも爆笑する。

・写真をほとんど撮っていないことに気づく。

こんな感じでした。聞いた話では、カイワレ大根に囲まれながら美術作品を鑑賞する企画などもあったようです。たかが学祭と侮るなかれ、そこには自由で奇抜な発想が溢れていました。

(うな)



2回目の登場、名古屋のナナちゃん人形、クリスマスバージョンです。

目次:

| | |
|-------------------------|---|
| 広岡先生の随筆 @研究のための目的と手段 | 2 |
| 学生実験 | 3 |
| 長命鍋の集い | 3 |
| 11月お誕生日会 | 3 |
| Two Weeks in Nepal | 4 |
| 2009年版アフリカ人の 山羊研修(2) | 4 |
| お知らせ | 5 |

燃えるようにあざやかな色で楽しませてくれた北部キャンパスの銀杏の葉も、11月終わりになって一気に散りだしました。

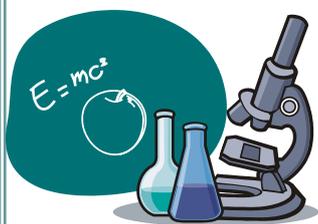
そういえば、畑もすっかり枯れて(荒れて?)しまっていたのですが、トマス(?)の実だけは、枯れ葉のなかにいくつもいくつも転がっています。本当にあれは謎の収穫物ですね...

ということで、トマスの写真です(笑)



好評連載 広岡先生の随筆

⑳ 研究のための目的と手段



以前にも書いたことであるが、研究の究極の目的は、自分の研究をできる限りレベルの高い雑誌に掲載し、さらにそれが世のため人のためになることである。そして、われわれ教員の目的は、学生が行った研究がより良いものになるように教授し、サポートすることである。そのような目的を達成するために、教員も学生も日々努力し、研究・教育に取り組んでいる。その姿は、できる限り良い記録の達成を目指して努力し、鍛えるスポーツ選手とそのコーチと同じである。そしてスポーツでは、そのような記録の達成によって、人々に感動を与えることができる。



この当たり前のことが当たり前と認識されていないと、多くの無駄な努力が払われ、時として悲劇が起こることもある。家畜育種学（動物遺伝育種学）の分野で1980年代に実際に起こったことであるが、その当時、コンピュータの性能の向上と普及によって、コンピュータを利用した統計育種学が急速に進歩し、その結果、コンピュータを使え、プログラミング技術に長けた当時の若い研究者が、コンピュータの利用イコール統計育種学と勘違いし、コンピュータを利用できない老齢の大先生や中堅の研究者を蔑み、排斥するようになり、多くの対立と悲劇が生まれた。しかし、皮肉にも、その後、さまざまなソフトウェアが開発され、プログラムを書けるだけでは意味のない時代が到来し、その間、コンピュータプログラミングのみを学んで、家畜育種学の本質を学ばなかった若手研究者はつぶれてゆくか、あるいは自慢のプログラミング技術を自ら放棄して、既存のソフトウェアを使うだけの「分析屋」になり下がることになってしまった。もし、ここで示した当時の若手の研究者が、統計育種学の本質は、理論の構築と分析結果のオリジナリティーであり、コンピュータの利用はそのための手段とツールにすぎないと気づいていれば、多くの無駄な努力と悲劇は起こらなかつたであろう。

同様のことが、今もいろいろな研究分野で繰り返されている。よく耳にすることであるが、畜産学を志す学生は、動物が好きになることや生産現場に長期に宿泊することが不可欠であると考えている人がいる。確かにこのことは研究には有利に働くかもしれないが、それがすべてではなく、本質でもない。極論を言えば、動物が好きで生産現場にいつも入っていても、論文を書けなければ何にもならないし、逆に動物が好きではなく、生産現場を知らなくとも、行った研究がハイレベルな雑誌に掲載されれば、それで評価をされて当然である。要するに、動物が好きであることや生産現場を知っていることは、研究のための手段になることはあっても目的にはなりえないのである。さらに言えば、動物好きという点であれば、ムツゴロウさんや動物愛護の人にはかなわないであろうし、また生産現場の知識は、生産者にはかなわないであろう。したがって、動物好きでなくともできる研究テーマはいくつでもあろうし、必要に応じて、生産現場を知るようにすればよいのである。また、生産現場に長期にいることの意味として、農家と親しくなり、意思の疎通を良くすることという人もいるが、人間関係は1日で築ける場合もあれば、10年近くかかっても築けるとは限らない。研究者は、研究テーマを自ら見つけ、最適な研究計画を立案し、研究結果を論文にすることによってのみ、その存在意義がある。このことを心得ていれば、多くの研究分野間の対立もまた避けることができる。

広岡博之

学生実験

畜資が担当する学生実験の後期一回目の回が、11月4日と5日の2日に渡り行われました。新しい内容が変わってから3回目ということで、TAの方もなかなかスムーズに動けたのではないかと思います。何より3回生のみなさん、優秀でしたよ～！真面目に取り組んでいる様子でした。TAとしてお仕事された方々、おつかれさまでした☆ 1日目終了後には、稲垣さんが用意してくれたワインとクラッカーとチーズ、そして2日目終了後には熊谷先生のご厚意によりすき焼きでの打ち上げが開催されました。



さて、熊谷先生が考案された我が畜産資源の学生実験の中で、3回生の学生さんたちが一番にぎやかに作業されるのは、やはりカッテージチーズ作りですね♪私も見ていて最も楽しい時間です。そこで、今回はその作り方、ここでもご紹介しちゃいましょう。とっても簡単です。

60℃に温めた牛乳1ℓに、レモン汁100mlを加え、軽くかき混ぜます。

10分ほど置くと、もろもろとしたものが沈殿するので、これを布または4重にしたガーゼに流し込みます。

そのまま絞らずに、ガーゼに包まった状態で水の中に入れ、振り洗いをします。水を替えながらにごろなくなるまで続けます。

軽く揉むように水分を絞り、出来上がり。塩を少々振りかけていただくと美味しいようです。

チーズの製法は3種類。①レンネットという特殊な酵素で作る方法②乳酸菌を使ってヨーグルトから作る方法③酸から作る方法。カッテージチーズは③にあたります。

今年度最後の学生実験は12月の9日10日です。もうすぐですね。また頑張りましょう！

<11月お誕生日会>

11月のお誕生日さんは、熊谷先生とようこさんとイクバルさんでした。ようこさんは残念ながら只今ご不在なのですが、みんなで“Happy Birthday Dear ようこさん♪”と、ばっちり歌いましたよ☆ようこさんのところまで聞こえましたでしょうか～??今回リクエストは何でも～ということだったので、イベント係りの独断と偏見により、アップルパイとチョコレートケーキになりました☆



<畜魂祭>

去る10月9日、畜舎にて畜魂祭が行われました。畜魂碑に向かい、これまで私たちの研究に身を捧げてくれた動物たちの御霊に、感謝の気持ちで手を合わせました。今後の研究に一層努力を惜しまないこと、改めて心の中で誓ったのでした。

長命鍋の集い



人々が探してやまない、食べると長生きできる鍋を遂に発見！ などということではなく、長命さんのお家で鍋をしましたというお話です。

「もうすぐ酒井さんがネパールに行くから何かしよう」、「おいしい鍋がたべたい」、「酒が飲みたい」、「じゃあ長命さん宅で」と、家主不在の中

決定されたちくし飲み会班の無茶に長命さんが快く応じてくださいました。鍋の中身は酒井さんが黒門市場で買ってきてくれたアンコウ。おいしい鍋にお酒もすすみ、みんな夜遅くまで楽しんでいました。他大学に異動されてからは長命さんにお会いする機会がめっきり減ってしまいましたが、これからもこうして楽しく交流していきたいですね。とりあえず次は年末でどうでしょうか(笑)。

(うな)



沖縄で見つけた山羊乳「さとうきびヨーグルトギャバ11(イレブン)」¥350。山羊乳とギャバの組み合わせが、近頃話題になっているようです。どんな味がするんでしょうか？

Two Weeks in Nepal

ナマステ！11月16日から12月1日まで約2週間ネパールに行ってきました。

個人的に10年以上ぶりの海外旅行のため、パスポートやらトラバンの用意やらバタバタしているうちにあつという間に出発日になってしまい、読み切れなかった地球の歩き方や、長時間フライトなど、様々な不安を抱きながら日本を旅立ちました。日本を早朝にたち、タイ→香港→バンガラディッシュを経て、深夜にネパールにつきました。

基本的に首都のカトマンズから車で5時間くらいかかるランプールにあるアパートで生活していました。アパート周辺はそんなに都会ではなかったけど、きれいな家やなにかと便利なジム併設のご飯屋があり、予想以上に快適な生活ができました。

食事面では、ヤギ肉や水牛肉や初めてのものを色々食べましたがお腹を壊すこともなく、健康面も病気になることなく元気に過ごすことができました。毎朝早くて眠かったです。

一番困ったのはトイレです。ネパールのトイレは基本的に屋外のほったて小屋に、紙ナシの水洗でないトイレでした。さらにネパール人はなにかにつけてチャイを飲むので、トイレが近くて困りました。ただ、マイ・ワースト・トイレを4日目くらいに経験したので、その後はまあ動揺することなくやりきりました。もらす方が嫌だし。

ネパールでは初めの3日くらいはゆっくりしていましたが、それ以降は農村訪問や水牛の嗜好試験など、毎日忙しく、ヒマラヤ山脈にも感動しなくなったあたりで気づいたら最終日となりました。

た。

最終日は昼間に一人で首都のカトマンズにお土産を買いに行きました。最終日にて初めての一人ぼっち、かつ、しばらくのカントリー生活には辛い、あまりの首都の都会っぷりに心が砕かれました。信号機がないのにめちゃくちゃ交通量の多い道路を前に、渡るタイミングがわからず、ただただ茫然としていました。何とかお土産をゲットし、逃げるようにカトマンズを離れました。

そして深夜にネパールをたち、香港を経て日本に昼過ぎに到着しました。日本に到着したとたん、安心感と解放感でドキドキしました。

そんな感じで、あつという間の2週間でした。

心のこりなのは、ネパール語が全く分からなかったのが大家さんとあまり交流できなかったこと、英語が半分もわからなかったのが、現地の先生、学生、そしてドライバーのラムさんが何を言いたいのか半分もわからず、また、私の言いたいことが半分も伝わらなかったことです。笑顔と勢いで何とか乗り切れた感がありますが、とりあえずもっと勉強しようと思いました。

ちなみに、家に帰って一番初めにしたことは風呂、家に帰って一番初めに食べたものはチョコでした。ただ、ネパールでは一度も魚と牛肉を食べてなかったのが、早くそれらを食べたいです。

P.S. 現地に残してきた偉大な先輩・酒井さんの無事な帰国を祈っています。

Araki

2009年版アフリカ人の山羊研修（2）

10週間にわたるアフリカ人の山羊研修、早いものでもう終わりが見えてきました。11月は、北海道～福島～沖縄～福島とインフルエンザが蔓延する日本の北から南まで、しかも気候順応が厳しい行程でしたが、研修員は風邪を引くこともなく、研修に励んでいます。

北海道では、家畜改良センター十勝牧場で、めん羊の飼養管理と人工授精、フェルトのマフラーと毛糸のぬいぐるみ作りを学びました。めん羊の人工授精は、牛や山羊と違って受胎率が低いため腹腔内視鏡を使用して外科的に行なわれることがあり、研修でもこの方法による人工授精を学びました。十勝研修中に、赤ちゃんが生まれた研修員がいて、「TOKACHI」と命名されました。



福島では、PCM(開発援助プロジェクトの計画、実施、評価の一環のサイクルを運営管理する手法)やPRA(参加型農村開発調査手法)、マイクロファイナンスといった農村開発に欠かせない手法や日本の山羊ネットワークなどについて学びました。

沖縄では、まだTシャツ一枚で十分という暖かい気候の中、肉用山羊の生産と利用方法、山羊の生理学などを研修し、沖縄の山羊肉料理も堪能しました。沖縄研修旅行の中で、研修員が一番喜んだのはなんと言っても「ちゅら海水族館」訪問でした。アフリカ人にとっては水族館自体が初めての体験、東洋一の水族館は、とても大きなインパクトでした。



さて、研修はいよいよ大詰め、研修員は、仕上げのレポート作りに取り組んでいます。私が担当する「PD法による普及マニュアル作成」という講義&実習で、研修員は17の技術マニュアルとポスターを作製します。日本で学んだ技術と知識を自国へ持ち帰り、アフリカ地域の山羊生産の発展を通じて、最貧困層の削減につなげてもらいたいものです。

ようこ(山羊ソリに乗りました♪→)



Department of Animal Husbandry
Resources, Kyoto University,
Faculty of Agriculture
Oiwakekyo, Kitashirakawa,
Sakyo-ku Kyoto 606-8502 Japan

電話 075(753)6365

FAX 075(753)6365

http://www.animprod.kais.kyoto-u.ac.jp/

GOAT BULLETIN



GOAT BULLETINは、皆様の投稿記事で
成り立っています。形式・文字数は問いません。
また、読者の方々からのご意見やお問合わせも
大歓迎です。下記のアドレスまでどしどし
送信してください。

E-mail: yoko3t@kais.kyoto-u.ac.jp

お知らせ

今月のゼミ

今月のゼミは、

| | | | |
|------------|-------------|---------|-------------|
| 12月 1日(火) | 中川(智)・スリタヤニ | (文献紹介) | 14:45-16:15 |
| 12月 8日(火) | 荒木・石田 | (文献紹介) | 14:45-16:15 |
| 12月 15日(火) | 木村(悠)・中川(靖) | (文献紹介) | 14:45-16:15 |
| 12月 17日(木) | 荒木・石田 | (研究者会議) | 10:30-12:00 |

の予定です。教室はE-103です。変更等は、随時お知らせします。

ゼミ係

今月のイベント

さて今年も残すところ、あと1月となりました！そうです。忘年会シーズンの
到来です！！畜資の忘年会は、12月18日(金)の18:30から、『goya』にて行
なわれることになりました。皆さんぜひご参加ください！！年の終わりを皆で
一緒に楽しみましょう♪ イベント係り

研究室の動向

塚原さんは(独)家畜改良センター実施の「アフリカ人山羊研修」の
コースアドバイザーとして全国行脚中です。先月からネパールで滞在研
究中の酒井君は、12月15日に帰国予定です。

今月のお誕生日会

12月のお誕生日さんは、上原さんと中川さん(M2)です！！リクエスト
は…ロールケーキです♪日程は決まり次第連絡します。お楽しみに◎

2009年 12月の飼育当番表

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|-------|----|---------------------------|-----------------------------|----|-----|----|
| 11/29 | 30 | 1 | 2 加藤・木村(悠) 体重測定◎ | 3 | 4 | 5 |
| 6 | 7 | 8 | 9 中川(智)・千千 体重測定◎ | 10 | 11 | 12 |
| 13 | 14 | 15 | 16 西尾・稲垣 体重測定◎ | 17 | 18 | 19 |
| 20 | 21 | 22 木村(知)・柳・石田 体重測定◎ | 23 | 24 | 25 | 26 |
| 27 | 28 | 29 | 30 竹内・兒嶋・イクバ ル・中川(悠)◎ | 31 | 1/1 | 2 |

編集後記 大切な人との別れがありました。とても静かに。枯葉の最後の一枚が、枝からそっと落ちるのを見るような、そんな感覚にとら
われました。これまでの出来事が、アルバムをめくるように思い出され、悲しみと同時に感謝の気持ちがあふれました。静かに横たわってい
る姿は、痛みや苦しみからの解脱を表しているようでした。旅立つ人と、残される人々の幸福を心から祈ります。